

図書館報

第 58 号

発行 社高等学校
編集 図書委員会

読書のすすめ

教頭 隈元 優一

私は、正直に言うとおまじり読書をしません。しかしながら、ある日、私はある週刊誌のコラムに目がとまりました。

それは本校の全校集会において話題に上がった、一日^{0.1%}の努力を一年間続けるといった内容だったので。そのコラムは、楽天の創業者三木谷浩史氏の著書「yおrれ、自身の考えを語っていました。私は三木谷浩史著「成功のコンセプト」を読むことにしました。その著書は約十年以上前のものですが、楽天の企業理念や三木谷氏の考え方が書かれています。学校運営に通じる内容もあり、随分刺激を受けました。

高校三年のこの時期には既に、大学進学が決まっ

た、あまり読書を好まなかった私は、授業でよく最近読んだ本の話をしてくださる先生に読書法を尋ねたことがありました。その先生は、少しでも興味のある本を机の上に積み重ねて置くそうです。できるだけ視界に入るところに。そうすると、何気に時間があるとき、その本の題名が目にとまり、ちよつと手に取って読んでみようかとなるそうです。ちなみに、その先生のお薦めは司馬遼太郎著「竜馬がゆく」でした。江戸時代後期から明治時代にかけての歴史小説です。登場人物も個人的に人間味溢れたキャラが数多く登場します。官軍の視点と賊軍の視点の両方から鳥瞰的（ちようかんてき）に物語が語られており、時代に翻弄される若者の姿が描かれています。当時の若者と自分が同じ年頃であることから、時代も世相も価値観も一般常識も違

う自分ならどう行動するのかと、考えることもありました。既に著者の作品の多くが映画化されていますが、書籍では、現地調査して調べられた人物像が、いい意味でもそうでない意味でも人間臭く、今の人も共感できる部分が多々見られます。そういった面では映画と書籍の異なる部分になるでしょう。映画と書籍を比べてみるのも面白いと思います。

読書をはじめめる動機は何であれ、自分の考え方や思想と異なる人物の視点は、社会に出るにあたって大変参考になると思います。

先に触れたように私の場合は、司馬遼太郎氏の作品を中心に読書の沼にはまった話をさせていただきましたが、他には「東大・京大で一番読まれた本」と帯にあった書籍で、外山滋比古著「思考の整理学」は、是非読んでもらいたい一冊です。外山氏の著書は「読み」の整理学や「もの見方、考え方」など有名なで、思考法や発想のヒントがあるエッセイになっています。

少し考える時間があるこの時期は、一年間、あるいはそれ以前の自分を回顧し、四月から新しい自分探しのスタートを切れるよう、準備期間を大切にしてもらいたいです。

来年度の進路がほぼ決まったこの時期だからこそ、新しいステージの自分に合った多くの良書に出会って読み耽（ふけ）るとよいのではないのでしょうか。

紹介された本

思考の整理学
外山滋比古

読みの整理学
外山滋比古

もの見方・考え方
外山滋比古

成功のコンセプト
三木谷浩史

竜馬が行く
司馬遼太郎

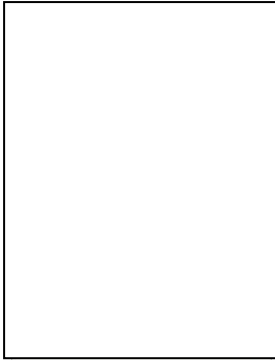
図書館報編集者による
おすすめミステリー

図書館報編集者による個人的
おすすめミステリーを紹介し
ます。読書を頻繁にする訳で
はないですが、小さい頃から
ミステリー小説だけは好んで
読んでいたので参考になれば
幸いです。全体的に昔の作品
が多いですが、気になったも
のがあれば、ぜひ読んでみて
ください。

ミステリーと言えば！

綾辻行人著

『十角館の殺人』



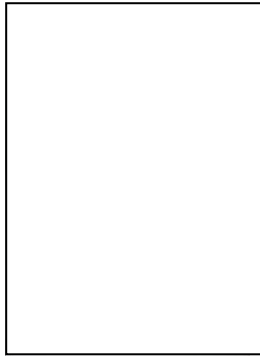
本格ミステリーと言えればこの
作品！館シリーズと呼ばれる
シリーズの一作目であり、無
人島、変な館で起きる連続殺

人、衝撃のどんでん返しなど、
ミステリー好きの大好きな要
素が盛り沢山！
まだ読んでいない人は、シリ
ーズの他の作品も含め、ぜひ
読んでみて下さい。ミステリ
ーにハマること間違いなし！

ミステリー初心者に！

東川篤哉著

『密室の鍵貸します』

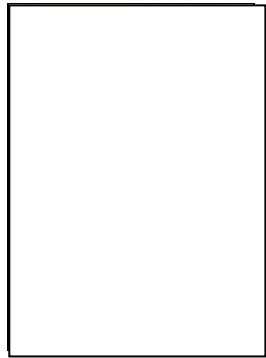


東川篤哉の作品はどれもユー
モアがふんだんに盛り込まれ
ているため、非常に読みやす
くミステリー初心者におすす
めの作家です。また随所に張
り巡らされている伏線も特徴
的で、しっかりと謎解きも楽
しむことができます。ミステ
リーに興味のある方はまずこ
ちらの本から読んでみてはい
かがでしょうか。

人間ドラマに注目！

東野圭吾著

『卒業』

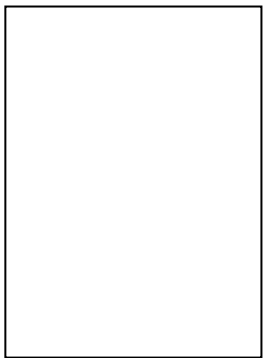


『ガリレオ』など多くのドラ
マ化作品を出している超有名
作家ですが、その中でも僕が
おすすめしたいのは、加賀恭
一郎シリーズ一作目の『卒業』
です。東野圭吾と言え、幅
広い作風で有名ですが、本作
は青春ミステリーとなってお
り、青臭い人間ドラマが魅力
となっております。

一番「衝撃」を受けた作品

乾くるみ著

『イニシエーション・ラブ』



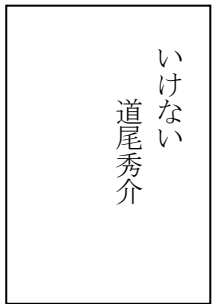
昔に読み、未だに当時の衝撃
を忘れられない作品です。読
み終わると作品の印象がガラ
ツと変わり、必ずもう一度読
み返したくなることでしょう。
この衝撃をまだ味わっていな
い人はぜひ読んでみて下さい。
私も記憶を消してもう一度あ
の衝撃を味わってみたいもの
です。

おまけ

最後に、私がこれから読みた
い・気になっていてる作品を紹
介したいと思えます。近年、
大注目されている作家、道尾
秀介の作品です。
次々と新しいことに挑戦され
ている作家で、小説でそん
なことができるの!!という画
期的な作品を数多く出されて
います。皆さんも新しい刺激
が欲しくなったときに読んで
みて下さい。

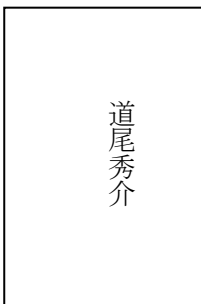
いけない

道尾秀介



『いけない』は文章と写真を
組み合わせたトリックなど、
何重にもトリックが仕掛けら
れている「体験型」ミステリ
ーです。

道尾秀介



『N』は全6章で構成されて
いますが、読む順番が決まっ
てNす、どの順番で読むか
によって違った物語が楽しめ
ます。その組み合わせは、な
んと720通り！

ひとこと

読書離れが進んでいる昨今で
すが、世の中は魅力的な本で
溢れています。そこには、あ
なたの人生を変える素敵な本
との出会いがあるかも知れま
せん。この館報が、そんな出
会いのきっかけになれば幸い
です。

教員からのメッセージ

「読書のススメ」

理科

花瀬 勇貴

皆さんが今の学年になって、もうすぐ一年が経とうとしています。皆さんは、この一年間、学校生活の中でどんなことに力を入れて取り組んできましたか。勉強？部活？恋愛？人それぞれでしょう。では場面を変えて、学校から自宅へ帰ってから皆さんは何をしているでしょうか。部活動や登下校に疲れてすぐに寝てしまっている人、自分の目標に向けてコツコツと勉強に取り組んでいる人、ゲーム三昧な人、インターネットや SNS を長時間見ている人、こちらの人それぞれでしょう。(個人的にはゲーム三昧、スマホ三昧の人が多いのではないかと思います。：。実際、十年前に比べて、高校生のインターネット・SNS などの利用時間が一時間程増えているという調査結果もありま

す。) インターネット・SNS などの利用時間が増加した一方で、深刻な問題が起きています。

OECD(経済協力開発機構)という機関が三年ごとに高校一年生を対象に行っている PISA という国際的な学力調査があります。この PISA では、「数学的応用力」、「科学的応用力」、「読解力」の三分野についての調査が行われます。二〇一八年に行われた PISA において、日本の「数学的応用力」、「科学的応用力」における国際的な順位はほぼ横ばいであったにもかかわらず、「読解力」の分野のみ八位から一五位へと順位が急落していました。

『読解力低下』の要因について、文部科学省は「SNS などによる短文のやり取りの増加で、長文を読み書きする機会が減ったこと」、「読書などで長文に触れる機会が減ったこと」を理由として考えています。

皆さんはどのくらい読書をしていますか。小学生・中学

生・高校生と学年が上がっていく毎に平均読書冊数が減少し、不読者(まったく読書をしていない人)が増加しているという調査結果が複数あります。

これを書いている私自身も中高生の時には、夏休みの読書感想文を書くために読書をすらくらいで、それ以外の時はほとんど読書をしていませんでした。そのため、読解力が身についておらず、国語の読解問題など長文を読むこともとても苦にしていました。

大学一年生の時に、とある本と出会い、私の読書嫌いが読書好きへと変わりました。そのとある本とは、喜多喜久著『化学探偵 Mr. キュリー』という本です。本のタイトルから気づいた人もいるかもしれませんが、化学的な視点から事件を解決していくミステリー小説です。文章中に実験器具の名前や化学薬品の名前などが多く登場するので、化学を専門とする私にとつて、時間を忘れて読み進めることができ、読書が楽しくなり、他の小説も読むようになり、趣味の一つとなりました。

私のように、とある本がき

っかけで読書が趣味になるかもしれません。まず、きっかけとなる本を見つけることが大切です。書店で本を購入してもいいですが、その本が必ずしも自分の思考・趣味に一致するとは限りません。そこで、利用してほしいのが学校の図書館です。お金を出さずとも自分に合う本を見つけることができる可能性があるからです。また、読書は様々な語彙や言葉の言い回しなどを学べる素晴らしいものです。

入試を推薦でと考えている人は自己推薦文を書く必要がありますし、入試で小論文がある場合もあります。一般入試の人は長い文章を読んで答える必要のある問題もあります。いずれにしても語彙力・読解力が必要となります。

皆さんが、専門学校・大学に入ると、高校の教科書と比べものにならないくらい膨大な量の文章を読んで、それぞれの専門性を高めていかなければなりません。ましてや、英語で書かれた長文を読んでも内容を理解しなければいけないこともあります。これから先、長文を読むことを苦し

ないためにも現段階から読書をし、長文を読むことに慣れておくことをオススメします。

紹介された本

化学探偵 Mr. キュリー

喜多喜久

著者は東京大学薬学部出身で、大手製薬会社の研究員として働いた経歴を持つ。

本作は、化学的視点から様々な謎を解き明かしていくミステリー小説であり、現在 10 巻目が発売されている大人気シリーズとなっている。

「心を整える」

保健体育科

高橋 侑弘

2022年度のシーズン、

プロ野球「東京ヤクルトスワローズ」に所属する村上宗隆選手が56本の本塁打を放ち、日本人のシーズン最多本塁打記録を58年ぶりに更新した。

日本歴代最多タイ記録の55本に並んでから、60打席足踏みをし、シーズン最終戦に更新するまでの間、とても苦しんだであろうことは容易に想像することが出来る。実際に村上選手は、「打席に立つ恐怖感もあった。踏ん張って踏ん張って踏ん張った結果だ」とコメントを残している。

勝負所で結果を残すことが出来る人を、私たちは「メンタルが強い」と表現し、その人は特別であるかのように考えてしまいがちであるが、私は平常心を維持する努力をし、普段通りの力を発揮するための心の準備が整っている人であると思う。それは、特別な瞬間でのみ意識するのではなく、日常から心がけるこ

とで心を整える習慣が身に付き、自分の力を最大限発揮することにつながるのではないだろうか。

心が整う習慣その①

「考えは変化してもいい」

学校、天気、食事、クラスメイトなど、毎日同じように感じていてもこれらは少しずつ変化しており、常に変化に対応していく必要がある。固定観念にとらわれ正解を決めてしまおうと、自分の知らない物の見方や価値観に対して、臆病になり殻に閉じこもってしまうことがある。相手求めていないことや、この場合の正解は何なのか？と冷静にフラットな気持ちで考えることが大切である。

心が整う習慣その②

「心を鎮める時間を作る」

ふとスマホを開くとメールや電話がたくさん来ている。返信しては着信し、24時間行きつく暇がない生活に慣れて

しまうと、少し時間ができた時に何をしてよいか分からなくなってしまう。自分の時間の大半が支配されている状況の中で日々が過ぎ去っていくと、自分を見つめ直す時間も取れないし心が荒んでいく一方なのではないだろうか。

1日のどこかで15分程度、意図的に心を鎮める時間を作る。心を鎮めるといっても特別なことをするのはなく、ただスマホやインターネットと距離を置き、天井を見つめて考え事をしたり椅子に座って思い出を振り返ったりするだけでよい。大事なものはザワザワした心を少しずつ鎮静化し、ざらついた心をメンテナンスしてあげることである。

そうすることで翌朝、平常心で家を出ることが出来ると思う。

心が整う習慣その③

「誰も自分のことは気にしていない」

周りが自分をどのように見ているのか気になり、悩んだことがある人は多いのではないだろうか。私自身も、周

囲からの視線や評価を意識するあまりに、自分らしさが分からなくなってしまうことがある。「自分はこう見られた」という意識が強すぎて、自分ではない自分を演じてしまうことがある。その考えは、結局のところ自分の可能性や能力に、蓋をしてしまっているともいえるのだ。人に見られていたという意識を少し横に置いて、「自分を見ている人は、案外誰もいない」と思ってみると、ぐっとストレスがなくなり、自分らしさを素直に出せるかもしれない。その方がきっと良い影響を与えて、自分にとってプラスになってはね返ってくるのではないだろうか。

毎日何の苦勞もなく過ごせる人などほとんどいないと思う。この本に書かれているように毎日の習慣や考え方を少し変えてみるだけで、日常が豊かに変化するのではないだろうか。読書を通じて、色んな人の考え方に触れることでなり

たい自分が見つかるきっかけが訪れるかもしれませんよ。

紹介された本

心を整える
長谷部誠

元サッカー日本代表キャプテンであり、39歳である今もお、世界トップレベルの環境でプレーを続けている長谷部誠。そんな成功の秘訣、メンタルマネジメントの手法が余すことなく記されている大ベストセラー!!

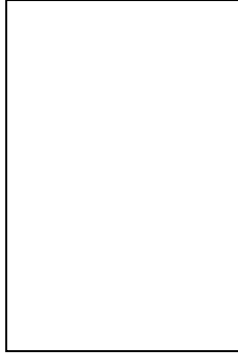
図書委員による
おすすめの本紹介

二年三組

蛭原渚月 海老名咲椰

『人間みたいに生きている』

佐原 ひかり



「食べる」という行為に嫌悪感を持つ高校生の唯。人前では食べるが、その後嘔吐していた。このことは家族・友達・誰にも打ち明けられず一人で苦しんでいた。そんなとき、森の奥「吸血鬼が住んでいる」という館「にたどり着いた。そこで人の血しか摂取することのできない泉に出会う。同じ「食べる」事のできない悩みを持つ泉の存在に安心感を得た唯はその館に通うようになったが…。

を抱えている二人でも、「食べたくないのに食べないといけない唯」と「食べたいのに食べられない泉」は実際違うのだと知った。お互いを知れば知るほど価値観の違いで衝突してしまいが、そこにはお互いの抱えてきた苦しみや孤独を認め合い、分かり合おうとする優しさがあると思った。「食べたいのに食べられない」は理解されるのに「食べたくない」「食事」という行為が嫌というのには理解されないと思うと、これまで唯が一人で抱え生きてきた事はとてもつまらかったし孤独だっただろうと感じた。そんな時に現れた泉は唯にとつて唯一の居場所だったのだろう。食べることは幸せだ！という社会に反している唯は、自分は不幸だ、おかしい、可哀そうな子と思われ生きていくことにとても心が痛くなった。また、家庭環境が良くないため、そういった悩みを打ち明けることができずに一人で苦しんでいたと

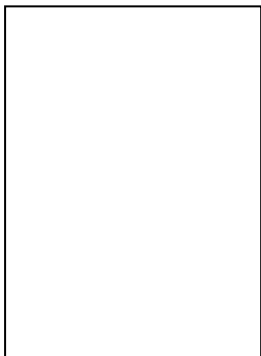
思っていると、どれだけ家庭環境や友人関係が大事か考えさせられる。この話は表現がグロテスクな部分があり、唯がどれほど「食事」という行為が嫌なのか伝わってくる。そこにも注目して読んでほしい。自分が普段当たり前だと思っている事は、誰かにとつては苦痛かも知れないと気づかされる小説。読み終えると、こんな考え方もあるのだと自分の価値観を変えられ、素の自分を認められたような気持ちになる。この小説を読んで救われた人は何人もいるだろう。ぜひ多くの人に読んでもらいたい。

二年四組

川上瑛大 森下典

『流浪の月』

風良 ゆう



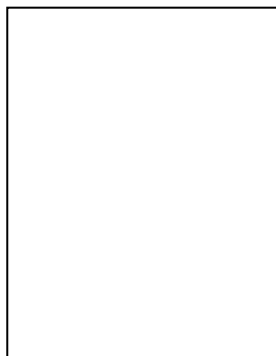
幼い頃に両親を失い、伯母さんの家に預けられることになった更紗（さらさ）は、その生活に耐えられなくなり公

二年五組

町田 姫華

『私は私のままに生きていくことにした』

キム スヒョン 吉川南



園で出会った大学生の文（ふみ）の家で暮らす。文との生活は更紗にとつて穏やかで幸せなものだったが、ある日、文は更紗を誘拐した誘拐犯として逮捕されてしまう…。

この小説は、家族とも恋人とも違う二人の微妙な関係性、それを取り巻く社会をシリアスながらも生き生きと描いた物語です。

その後事件は、週刊誌やニュースを通じて形を変えながら人々に認識されていきます。二人の関係や心情はマスメディアを通して事件を知った人々には当然ながら伝わらず、辛辣で攻撃的な言葉を用いて非難される様子も多く描かれます。マスコミやSNSの報道で軽はずみに納得しがちな私たちは世間に流布された情報とどう向き合うべきか。二人の歩む数奇な運命とともにそんな社会的な側面に注目せずにはいられません。

読んでいて苦しく、それでいて魅力的なこの『流浪の月』。見かけたらぜひ、手に取ってみてください。

人と比べて何になる？あなたの人生で一番大切にしたいきやいけないのはあなた自身。皆さんは今悩んでいることはありますか？今、悩んでいることがある方に私がお勧めしたい本は「私は私のままに生きていくことにした」という本です。この本は、韓国でベストセラーを獲得したエッセイ本で、悩んでいることがある人や韓国が好きの人にもぜひ読んでほしいです。

私たちはみんな、ヒーローになること、特別な何者かになることを夢見ていた。けど今では、世界どころか自分を救うことに必死な大人になってしまった。中途半端な年

年齢や経歴、大人になった私たちは、誰もが大人のふりをしながら生きています。何が正解なのかわからない世の中で、

自分を認めて愛する方法を伝えたい。誰の物まねもせず誰

も羨まず、自分を認めて愛する方法を伝えたいといった本

で、その中でも特に心に残ったのは「ありのままの自分と

出会えれば、隠していた欲望を少しは許せるようになるか

もしれない。逃げたり、言い訳したりするのをやめて、好

きな自分と嫌いな自分が合わさった本当の自分と向き合っ

た時、私たちは傲慢な人間ではなく人間らしい人間として

生きられる。」という言葉です。自分の嫌いなところがあつたり、

逃げたくなったりすることも

あるけど、この文を読んで逃げたりせず自分と向き合うこ

とが大切だと思いました。少し分厚い本ですが、イラスト

が所々あつたり、韓国について知れたり、文字数も少ない

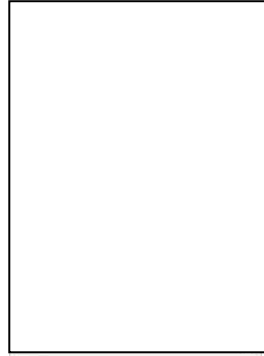
ので本を読むのが苦手な人でもサクサク読めてしまいます。

気になった方はぜひ手に取って読んでみてください。

古跡董

『秒速5センチメートル』

新海誠



この小説は、今や知らない人の方が少ないのではと思う

くらい、知名度が上がった新海誠監督の三作目の劇場公開

作品の小説版です。「初恋」「人の別れ」「時間と距離」をテーマに作品が書かれています。

本の内容に入る前に、まずは「秒速五センチメートル」というタイトルの意味について

桜の花びらが舞い散る速度を表しています。この桜の花び

らが舞い落ちるといふ描写がこの小説の象徴として何度も登場します。

本作は、三部構成になっており、第一章は、小学生から

中学生時代の貴樹という男の視点で描かれています。親の都合で離れ離れになっていく

初恋の少女・明里への繊細な思いが、漠然と立ちほだかる

未来への恐れと期待とともに描かれています。第二章は、

時間が経ち高校生となった貴樹に片想いをする同級生の花

苗へと視点が移り、彼女が少しずつ歩き出していく姿が描

かれています。第三章は、社会人となった貴樹に焦点が戻

され、日々に嫌気がさした彼の内省で話が進んでいくとい

うものです。

劇場版と比べてみると、内容はそこまで変わったものはありませんが、心情描写が細

かく、とても情緒的なのが魅力です。普段私たちの日常に

は波瀾に満ちたドラマや劇的なこともほとんどありません。

それでも生き続けている世界の美しさや人の繊細さがこの

作品に詰まっております。現実のそういう側面をフィルムの中

に切り取り、観終わった後に、見慣れた風景がいつもより輝

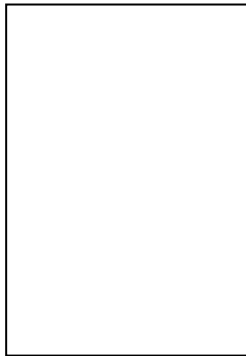
いて見えるような、そんな作品になっています。是非読んでみてはどうでしょうか。

二年六組

田畑みずほ 小西琢翔

『モモ』

ミヒヤエル・エンデ



廃墟になった円形劇場に住み着いた少女、モモ。モモには不思議な力があり、話を聞いてもらうことで町の人た

ちの心は段々とほぐれていきます。ところが、「時間どろぼ

う」と呼ばれる男たちが町の人々の時間を次々に奪ってい

き心の余裕を失わせていきま

す。モモの楽しい友達すら「忙しい」と言いモモと会う時間

が減っていききました。そんな中、モモは「時間どろぼう」

に目をつけられ…。

人と人が集まる社会を便利に回すシステムが「時間」

でしょうか？いえ、たとえ世界にあなた以外誰も存在しな

くても、あなたの中に「時間」は絶対的に存在します。この本は「時間」を中心に

今の社会問題を表現している児童書です。今の社会では時

間や効率など、私たちは何かに追われながら日々を過ごして

います。そんな社会の中で淘汰されていった、たわいも

ない時間や人と人とを繋いでいたささやかな時間、この物語はそれらの大切さに気づか

せてくれます。

私たちは忙しさの中、本来の目的を忘れ、灰色の時間を

過ごしているのかもしれない。『モモ』は、時間とは人そ

れぞれのもつ人生であることや、本来時間が持っている豊

かさを教えてくれる、ふと思

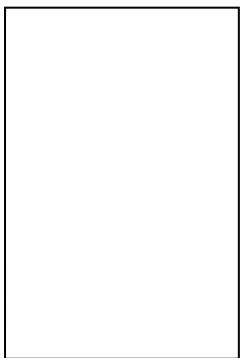
い出したくなるような一冊です。ぜひ読んでみてください。

二年七組

長嶺陸翔 小林海斗

『ルビンの壺が割れた』

宿野 かほる



「ルビンの壺」という言葉を知っていますか？それは1つの図形が、見方によって、「壺」に見えたり「向き合った二人の顔」に見えたりするという不思議な絵です。見方によって全く別のものに見える「ルビンの壺」、それが割れるとは一体どういった意味なのでしょう。

水谷という男がフェイスブックを見ていると、たまたま、かつての恋人未帆子を見つめます。ただ恋人と言っても大学生だった30年も前のことなので、水谷は確信が持たず、未帆子のフェイスブックにある記事を読みあさりました。そして、写真に写っている未帆子を見て確信すると、未帆子に何度もメッセージを送ります。一年後ようやく未帆子から返信があり、二人はメッセージのやりとりをする

ことになりました。やがて、二人のやりとりは30年前の大学生の頃の話へと遡っていきます。

物語が進むにつれて、二人の衝撃的な関係が明らかになっていくと同時に、水谷の異常性が見え隠れしてきます。

そんな二人のメッセージのやりとりがこの本の魅力であり、やりとりが進むにつれ、徐々に読者を惹きつけていきます。また、この本は終盤になると、登場人物の印象がガラリと変わり、ラストには衝撃的な結末が待っています。皆さんもどんな結末が待っているのか想像してみながら読んでみて下さい。

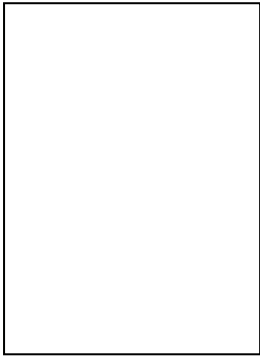
比較的ページ数も少なく、普段あまり小説を読まない僕でもすらすら読むことができました。読み始めると止まらなくなる小説ですので、書店などで見かけた方はぜひ読んでみてはどうでしょうか。

一年一組

上山友子 永信廉乃

『西の魔女が死んだ』

梨木 香歩



この物語は、主人公・まいに祖母が危篤だという知らせが来るシーンから始まります。祖母の元へ向かう車の中でまいは祖母と過ごした1カ月の思い出を振りかえります。中学生になって間もなく、学校に行けなくなったまい。思案したまいの両親は、田舎に住んでいる「西の魔女」と祖母の下でまいを生活させることにしました。

カチツとしながらもユーモアのある祖母。実は祖母は魔女の血を引く家系の生まれだといひます。それを聞いて、魔女の力に猛烈な憧れを抱いたまいは、祖母から魔女になるための手ほどきを受けるようになりまます。特殊なレッスンかと思いきや、祖母がまいに課した「基礎トレーニング」は、「早寝早起きをし、食事をしっかりととり、規則正しい生活をする」という特別なことではありませんでした。しかし、ちよつと不満に思いながらも、様々な「レッスン」を受け、まいは少しずつ変わっていきます。

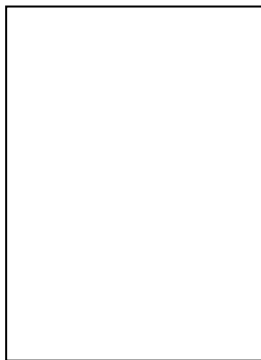
まいとおばあちゃんのやりとりが素敵でとても心が和みます。特に、ラストシーンでのおばあちゃんからのメッセージには心が震えました。また、「西の魔女が死んだ」の後日談である『渡りの一日』も収録されており、成長したまいの物語が楽しめます。穏やかになれる作品です。ぜひ読んでみてください。

一年三組

角濱紫苑 岡田真花

『老人と海』

へミングウェイ



にサメに襲われ、やつとの思いで捕まえたカジキを食い尽くされてしまうというお話です。

あらすじを聞いた今、あなたは悲しいお話だと思ったと思います。ですが、「獲物を捕らえられなかった。」「また不漁になってしまふ。」「という悲しみだけではなく、死闘の過程での老漁師とカジキの関係や、さまざまな感情の変化が5つの場面にわたって書かれており、深く考えさせられる内容になっています。そのような、作品の深さや美しさ、構成の統一感など、この作品の完成度にとっても感動させられました。

人間がいかに行動するべきか、人間がどこまで忍耐できるのか、その限界を極めようとして、人間が運命と対決をする。人間についてすごく考えさせられる物語です。

あなたもこの本を読んで、人間の可能性や、自然の美しさについて考えてみてください。

私がおすすめる本は『老人と海』です。これは、第二次世界大戦後にへミングウェイによって書かれた作品です。『老人と海』は、キューバに住む一人の老漁師が84日間もの不漁の後、巨大なカジキを3日間にわたる死闘の末に捕獲します。ですが、その後

一年四組

藤井紗弥 原ほのか

『謎解きはディナーのあとで』

東川 篤哉



この物語は、主人公の国立署の新米刑事、またの姿を世界的に有名な「宝生グループ」のお嬢様な宝生麗子、そして、麗子の執事である影山、麗子の上司であり、「風祭モーター」の御曹司である風祭京一郎が織りなすミステリー小説である。刑事である麗子が遭遇した難解な事件を、麗子が執事である影山に相談し、影山が現場を見ずに概要を聞いてだけで、事件を推理し、解決に導いていくという物語である。謎解きの合間に出てくる執事である影山の麗子への毒舌・暴言や、風祭警部と麗子のやり取りなどユーモアあふれる作風となっている。影山が、麗子たちが解けな



『アーモンド』

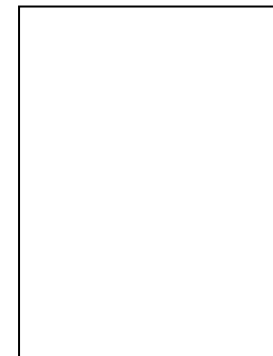
ソン・ウオンピョン

竹内美結 森岡勇伍

一年五組

かった事件をスルスル解き、その事件の解説の合間に入る麗子への「失礼ながらお嬢様。お嬢様の目は節穴でございませるか？」というような辛辣なコメントが面白い。ミステリー小説だが、肩の力を抜いて楽しめるものとなっており、一人一人のキャラが濃いので最後まで楽しんで読むことができる。また、謎の一つ一つがそれほど長くないため軽く読むことができ、ミステリー小説を読み慣れていない人でも楽しめる。小説は全部で四巻あり、ドラマ化もされている。ぜひ読んでみてほしい。

ソン・ユンジエは生まれつき扁桃腺(アーモンド)が小さいため、喜び、悲しみ、愛、恐怖などのあらゆる感情をほとんど感じられず、ただ、いつも無表情だった。生まれてから笑わなかったユンジエを彼の母は医者頼らずに目立たないように、普通の子に見えるように、様々なことを覚えさせた。その甲斐もありユンジエは、母と祖母と古本屋を営んで、それなりに平凡な暮らしを送っていた。ところが、12月24日、クリスマスイブのユンジエの誕生日のことだった。1人の男がナイフとハンマーを持ち暴れていた。そして、ユンジエの目の前で、母の頭をハンマーで殴り、祖母を刺し殺した。そんな状況でさえユンジエは無表情で眺めていた。その後一人になったユンジエは、殺人以外は何でもやるチンピラと噂されているゴニと出会うことになる。ゴニはまっすぐに感情をぶつけてくる。そんなゴニによってユンジエは少しずつ変わっていく。



『いつかの冬、終わらない君へ』
いぬじゅん

池内陽 萩原佳祐

一年六組

れた。普通とはいったい誰が定め、どういうものなのか、ある出来事について感じることはみんな同じなのか、そのはつきりとした答えは、この本には書かれていなかったと思う。でも、だからこそ深く考えることができた。ユンジエはたくさんの人に変な目で見られた。でも、それ以上にたくさんの人に愛されていた。この話に出てくるたくさんの方の問いかけについて考えながら、それぞれの愛し方を知ることができるとこの本をぜひ読んでほしい。

出版社で働く柚希(ゆづき)は小説の編集になりたかったが、小説ではない編集部で働いています。柚希には一緒に小説家を目指していた親友・彩羽(いろは)がいましたが、二年前に事故で亡くなってしまったのです。柚希は事故の原因は自分にあると思いつつ絶望的な状況にありました。ある日、赤いパーカーを着た青年が現れ、柚希の状況は一変していきます。はじめてこの作品を読んだときは切ない気持ちになりましたが、主人公が前に進む姿にとっても勇気を与えられました。この作品は純愛小説なのですが、いろんな人間関係のなかでお互いを理解し合っていくところがすごく素敵だと感じました。またミステリー要素があり読み進めていくところに真実が明かされていくところが面白いです。冒頭部分には謎でいっぱいだと思うので、この作品を読むときの推理ポイントをもつて紹介したいと思います。

1つ目は、主人公と親友の関係です。実は同じ夢を語り合っていた親友・彩羽とは思

いがすれ違い、喧嘩別れしてしまいました。それを最後に彩羽は事故で亡くなり、二度と会えない存在となってしまいます。ところがある日、彩羽がインターネットサイト上で小説を投稿していることに気づきます。彩羽はどうやって、何のために小説を投稿したか考えてみてください。

2 つ目は、主人公と職場の関係です。柚希は親友をなくし、夢も目標も忘れ、仕事をやり続けています。そんな絶望的な状況に不思議な青年が表れ、柚希の手助けをしてくれます。しかもその少年は柚希のことをすべて知っていたのです。なぜその少年は柚希のことを何でも知っており、手助けをしてくれるのでしょうか。不思議すぎる少年の正体についても考えながら読んでみてください。

3 つ目は、主人公と家族の関係です。母には不思議な青年と繋がりがあり、ずっと思っていることがあります。そんな母は柚希に対してだけ当たりが強いのです。母と柚希はお互いに本当の想いを伝えられず、ちぐはぐな関係が

続いていました。母が心の奥に隠している思いとはいったい何なのでしょうか。

ラストの展開には衝撃的な事実がたくさんあり、とても甘く切ない結末です。とても面白いのでぜひ読んでみてください。

またこの作品は冬シリーズの 1 つです。一冊完結なので気軽に他の作品もどうぞ。